

○小関勝助議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

なお、山形新聞社、毎日新聞社、朝日新聞社、米沢新聞社、読売新聞社、河北新報社から、本日のパソコン、カメラ、録音機の使用について申請があり、許可いたしましたので、ご報告いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

渋谷佐輔議員の質問

○小関勝助議長 順位8番、議席番号13番、渋谷佐輔議員。

(13番渋谷佐輔議員登壇)

○13番 渋谷佐輔議員 よろしくお願ひします。

私は、通告によりまして、以下3点についてご質問させていただきます。

大きな項目1番目、国道287号線、白鷹町大瀬地内の抜本的、恒久的対策についてであります。

国道287号線は、県内でも主要な幹線道路であります。とりわけ当地域にとっては国道348号線とともに物流、交流の大動脈であることは間違いございません。ところが、ご承知のように、この場所は時折交通どめになる、利用者にとっては問題の箇所であります。

山形県としても観光立県を標榜し推進し、それに呼応するように西置賜圏域も観光を一つの柱として地域経済を活性化させようとしているとき、重大な関心を持つものであります。隣接する白鷹町、朝日町だけの問題ではなく、寒河江市を中心とした寒河江西村山経済圏域、そして長井市を中心とした長井西置賜経済圏域が総力を挙げて、現在改修工事が行われている工事がどの程度の耐久力があるのか検証しながら、

西置賜中核として自負する長井市であれば、西村山圏域の中核である寒河江市と密接に連携し、抜本的な恒久的な対策を県や国に対して提言、要望すべきであると思います。もちろん、白鷹町、朝日町の意向を尊重することは当然であります。

私見を申し上げます、まず国の出先機関である研究機関で地質、土質、断層帯などまでも徹底調査していただき、恒久的な工事はいかに進めるか、国によって判断していただくことはできないのでしょうか。例えばトンネルの開削による新道開設、または大規模な地山掘削により幅員の確保など、一日も早く方向性を示していただければ圏域住民も安全と安心、そして何よりも地域活性化と地域振興につながるものではないかと思いますが、補修、補強工事の進捗状況を含め、市長の所見を伺いたいと思います。

大きな項目2番目、公共施設の整備計画についてであります。

今般、ほかの議員の質問と重複することになりますが、まずはご理解をお願いしたいと思います。

1つ目は、市役所庁舎建てかえについてであります。

市役所本庁舎は昭和33年に建設され、一部増改築を行いながら55年間、市民生活のため、執務機関の中核としてその役割を果たしてきました。しかし、ご案内のように電気設備や給排水施設など経年劣化、老朽化などにより、決して良好な執務環境とは言えないと思います。さらに、第2庁舎にあっては耐震補強ということもなされておらず、極めて危険感さえ覚えます。3年前の東日本大震災を機に、過年度において耐震補強工事を行ったものの、果たして万全かといえ、どうでしょうか。

本庁舎、そして第2庁舎の建物自体、構造的に劣化しております。カウンター越しに蓄積された書類の山を見れば狭さかげんはひとしお、

議会棟においても会議室や打ち合わせ場所も不足している状況です。庁舎の分散は、業務効率の低下、維持管理費の無駄など、見えない支障を及ぼしております。市民にとっても随分と不便や勝手の悪さを与えているのではないのでしょうか。高齢化社会が進む中で、バリアフリー化のニーズも見逃すことはできません。どのような整備方法になるか、建設事業については多額の費用を要することから、市の財政運営、市民生活に及ぼす影響を考えればたやすいことではありませんが、近々避けて通れない課題だと思います。

平成25年12月に示されました長井市庁舎整備庁内検討委員会の報告をどのように受けとめておられるのか、市長の考えをお聞きしたいと思います。

2つ目については、文化施設、体育施設整備に順位づけはないのかということでもあります。

市民文化会館の老朽化も問題になっております。また、体育施設整備検討委員会でまとめられた施設整備の検討課題や資料もあるようですが、文化会館は芸術文化団体やイベント企画団体からの強い要請もあるでしょう。体育施設については、ご存じのように体育協会を初め各種競技団体からも熱烈な要望があるようです。利用者の期待に全て応えることは果たして可能でしょうか。整備計画の概要と順位づけは当然必要なのではないでしょうか。

これら建てかえの時期を迎えている公共施設、市が所有する約100施設110棟のうち、建築後25年経過しているもの58施設、そのうち40年を超えるものが16施設と言われております。既に建てかえが必要とされております。10年後にはさらに25施設が建築後40年を超えることになり、全体で4割の建物が建築後40年を超えることとなります。施設の更新時期が今後連続し、財政面での厳しい状況が見込まれます。このように類似する施設を見たときの施設の統廃合という

議論も遡上するのではないかという懸念すら覚えます。効率的、合理的な管理運営も議論されるでしょう。

人口減少、高齢者人口の増大、税収の見込み、福祉関係費用の増大など、将来財政負担などを考慮すれば、民意を反映させる施設整備には多くの時間と手間暇がかかるのではないのでしょうか。待ち望んでいる市民にはわかりやすい説明と理解を求めていくことがまず必要だと思いますが、市長のお考えをお聞きしたいと思います。

大きな項目3番目、次期市長選に向けての考えについてであります。

内谷市長におかれましては、約7年半前、初の市長選挙において激戦を制して当選されました。記憶に新しいことです。自来、公約の実現に向けてひたすら走ってこられたことと思います。厳しい長井市の財政状況の中から多くの市民の理解と協力をいただき、市政全般にわたり道筋をつけているということは一定の評価をしなければならぬと思います。しかし、待ち受けている政策課題は山積みであります。数え上げれば10本の指でも足りません。地域社会を取り巻く環境の変化、国内外の動向も長井市のこれからを占う大切なキーワードであります。まして、市民のニーズも多岐多様であります。まさに選択と集中により持続可能な政策運営が求められます。任期満了まであと数カ月に控え、内谷市長は次期市長選挙に向け、どのようにお考えなのか伺いたいと思います。

以上、壇上での質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渋谷佐輔議員のご質問にお答えいたします。議員から3点頂戴いたしました。順次お答え申し上げます。

まず最初、国道287号、白鷹町の大瀬地内の抜本的、恒久的対策についてということについてお答え申し上げます。

議員からは、国道287号の通行どめは長井市にとっても多大な影響があるのではないかと、特に長井西置賜経済圏と寒河江西村山経済圏が総力を挙げて抜本的な対策を提言、要望すべきではないかということで、それぞれ西置賜の中心である長井、あるいは西村山の寒河江が連携していくべきではないかということで、さまざまご提言をいただいたところでございます。

融雪と3月26日、30日の降雨が原因と考えられます幅100メートル、長さ150メートルの地すべりが発生し、大瀬地内の国道287号に路面の隆起や亀裂が発生したところをご存じのとおりでございます。3月31日より全長720メートルが通行どめとなっております。現在、最上川対岸の狭隘な県道を迂回するルートと白鷹町中山地区を経由する中型バスまで可能な通行ルートが迂回路として指定されているところでございます。

この通行どめの影響は長井市にとってもまことに大きなものがあるというふうに考えておまして、庄内や村山地方に取引先のある市内企業も多く、迂回路や国道13号への遠回り通行による燃料代、人件費などの物流コストの増加は、コスト競争の中では大変厳しいものと言わざるを得ないというふうに思っております。

また、この14日から山形DCが始まるわけですが、アヤメとサクランボのツアーはこれからシーズンに入って、特に福島、新潟方面からのツアーのお客様が飯豊のゆり園や長井のあやめ公園を通らずに国道13号線を通して東根や寒河江に向かうことも懸念される材料だと思っております。

長井市といたしましても、一日も早い開通再開を願うものでございますが、現在、県では、議員ご指摘のとおり地質調査を行って、地すべりの深さや構造などを把握した上で、国土交通省や所管の独立行政法人、土木研究所と相談しながら、どういう対策工事をいつからするのか、

しかも早急にしなきゃいけないということで、その対応を急いで検討してる段階ということでございます。

地すべりは今後の天候次第では再び活発化するおそれがありまして、今後、大雨の時期に入るため、現地に横ボーリングを行いまして、横滑りの原因となる水を表面に出す工法をこの6月9日、おとといですね、実施して、雨が降っても地下水の上昇を抑える対策をとりながら、順序を踏んで現道の復旧を図るとのことでございました。長井市としても周辺市町と連携しながら、引き続き県に対して一刻も早く復旧が図れるよう要望してまいりますので、よろしく今後ともご指導賜りたいと思います。

なお、置賜3市5町でつくっております、これは私ども首長と各市町の議長と県議会議員の皆様方でつくっております置賜総合開発協議会、こちらのほうで5月下旬に緊急要望書ということで置賜総合支庁に、そして6月上旬に吉村知事のほうに要望書を手渡ししておまして、一日も早い復旧をお願いしているところでございます。

次に、2点目の公共施設整備計画についてということでございますが、議員からは、特に庁舎建てかえの道筋はどうなってるんだということと、文化施設並びに体育施設の優先順位づけについてのご質問、ご提言でございました。

平成23年3月にまとめられました行革の委員会の皆様の取りまとめたいただいた意見書ということは私どもも最重要視しているわけですが、その際に、行革委員会のほうには私どもから課題としてお願いしたという経緯がございます。したがって、その際に、午前中の赤間議員、あるいは町田議員のご質問の中でもちよっとお答えいたしました。公共施設の整備については今後どのような方針を定めていくのかというのは非常に難しいところがございます。この行革の中でも、やはりこれから人口減少の

中で必要なものと、これは廃止せざるを得ない、閉館せざるを得ないもの、こういった非常に厳しい判断をせざるを得ないということ、また、きのうの一般質問でもございましたように、一方で新たな機能を持つ施設も考えていくことも検討しなきゃいけないというふうに思っております。それは例えば、議員おっしゃるとおり西置賜の1市3町のうち、小国を除いて白鷹、飯豊、長井というのは長井都市圏でありますので、その中で類似の施設は余りつくるべきじゃないと私も思っております。ただし、特にパークゴルフ場はそれぞれあるわけですけども、ゲートボールをなさってる団体の皆様、あるいはグラウンドゴルフをなさってる団体の皆様は一様に、長井にも雨の日でも、あるいは冬の間、軽運動できるような、そういった施設が欲しいと。ほかの町にあるところの施設は、やっぱり長井の皆さんが使うには狭い、あるいは順番待ちで扱えないということなどもございますので、そういったことなども念頭に置きながらお話をさせていただきたいと思っております。

まず最初、市庁舎の整備についてではございますが、平成24年度に実施しました本庁舎耐震診断の結果を受けまして、昨年度から庁舎整備検討委員会で検討を行っていただき、今年度からは庁舎を含めた市全体の公共施設整備の検討を行うための公共施設整備検討委員会の中でさらに検討を行うこととしております。委員会での検討結果に基づき策定する公共施設整備計画により、庁舎の整備についても対応していくこととなりますけれども、改築、新築、大規模改修、いずれかの方法を選択するにしても、この10月ぐらいからは外部委員を含めた委員会での検討、パブリックコメント、基本設計、実施設計、工事施行等の時間に3年ないし5年程度の期間を要すると思われることから、その間の庁舎の安全性を確保するため、本庁舎については今年度に最低限の耐震補強工事を実施し、特に

つり天井の安全性が心配な第2庁舎の3階については、置賜総合支庁西庁舎2階への一時移転について県と現在事務手続を進めているところでございます。

当初、私どもようやく財政再建は明けたわけではございますが、庁舎の建設というのは30億円、40億円、今、建設物価上がっておりますのでそれ以上になると思いますが、非常に多額の経費を要するということと、整備手法として非常に限定されているということから、できれば、55年たってるわけですけども、この庁舎を大規模改修して、そして第2庁舎は取り壊して、この近くに隣接したところにもう一庁舎つくってやろうという考えでございました。そこでやっぱり20年ぐらいもたせて、そしてその後には財政がしっかりと長期展望を望めるときに、なおかつ、やがて新たな市町の一体化ということが図れる時期が来るときに、やっぱり非常に有利な特例債なども活用できないかということで考えておりました。したがって、本庁舎も冷暖房の整備やら、あるいは大規模改修なども考えておったんですが、どうやら耐震度調査を行ったらこれはかなり難しいと、果たして55年たって減価償却過ぎた建物をさらに何十億円もかけて耐震化、大規模改修するのが正しい選択かということについて、私自身は非常に問題があるということで庁舎の検討委員会のほうに任せたとところでございます。

また、市の公共施設整備計画の策定に向けまして、昨年10月に公共施設整備検討委員会を設置しております。これは何度かお話ししておりますが、委員長に副市長、副委員長に総務課長ほか関係課長11名で構成し、事務局として財政課の公共施設整備技術主幹を新たに設けながら、この主幹を中心に総務課、財政課、企画調整課の3課体制となっております。計画策定の趣旨は、今後人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことを踏まえ、早急に公共施

設等の全体の状況を把握し、長期的な視点で更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うことにより財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することとということでございます。したがって、市庁舎を初め文化施設や体育施設を含めた全ての公共施設の今後のあり方について、公共施設整備検討委員会でも検討していくこととなります。5月に開催されました第3回委員会ではスケジュールを含めた今後の進め方等について検討しており、現在のところ、早ければ庁内検討委員会による検討を9月まで行い、その後10月からは市民も含めた外部委員会による検討等を進める予定と聞いております。現在は検討の前段となる施設台帳の整備に向けて資料の収集整備を進めておりますが、これと並行して、ある程度計数化した客観的な施設評価、優先度の設定基準等の検討を行っていく予定であるというふうに聞いております。

この項の2番目、文化施設及び体育施設の優先順位づけでございますけれども、委員からは文化会館の建てかえ、あるいは民意を反映させる施設整備には時間がかかるのではないかと、利用者の期待に全て応えることは可能なかというような趣旨というふうに今伺いましたところです。

文化会館については、文教施設整備検討委員会において、現在の公園内に新たに改築する方向が望ましいとの検討がなされております。これは、文化会館は昭和49年に完成、供用開始の建物でありますので、これも40年たつてるというわけございまして、こういった方向が出されたものというふうに理解しております。文化会館については、文教の杜などの関連施設もあり、文化会館に求められる機能、規模について、もう少し突っ込んだ検討をしていただく必要があると考えております。このため、今年度、いわば概要設計、基本設計まで行かない概要設計、

構想の下地となるような検討をお願いしたいということで、これは予算を皆様にも、議会からもお認めいただいたところでございます。市民の意見を集約して施設を検討していくことは時間がかかりますが、よりよいものとするためには必要不可欠なステップであろうと考えております。また、各施設について、利用者の期待に全て応えることはできない部分もあろうかと思っております。市全体の公共施設の整備、方向の検討と連携を図りながら進めていかなければならないと考えております。

次に、3点目の次期市長選への考え方ということでございます。

議員からもございましたように、私たち長井市は平成8年、長井市行革大綱を定めながら、以降15年にわたりまして財政再建を目的に、さまざまな行財政改革を断行してきたところでございます。元平市長、元目黒市長、そして私と、15年にわたって行ってまいりました。私が就任させていただいて8年目になるわけですが、特に平成18年から22年までの5年間は集中改革プランということで、まさに乾いたタオルを絞るような、そういった非常に厳しい行革を進めざるを得ませんでした。以降23年から25年までの3年間は、まず行革、財政再建が明けたとしても、その準備期間としてさまざまな準備を行いながら、そして同時に今年度、26年度からスタートする第5次総合計画の策定に全力を傾注いたしましたし、そして新たな10年計画がようやくことしスタートしたということでございます。

私は、これからの市政運営というのは、やはり行革の私たちが学んだ幾つかの教訓と言うべきものがございます。これらをやっぱりしっかりと次の世代に伝えていかなきゃいけないというふうな責任があるというふうに思っています。同時に、私が担当させていただいた行革期間のまずこの8年間の中で、なぜといいますか、成功した要因、これは、議会はもちろん市の職員

の皆様のご努力、ご理解、ご協力によるものも大きいわけですが、何といても最大の成功の要因というのは、市民の皆様のご理解、ご協力あってのものだというふうに思っております。そして、私はこの8年の中でさまざまな、例えば午前中もありましたけども、本当に一つ一つ思い出すんですが、環境のことでは衛生組合の補助金とか手当とか、いろいろ削らせていただきました。細かいところまで言えば啓発のための環境のポスター、これたった1万5,000円ぐらいなんです。それは子供たちが環境のコンクールのためのポスターを出していただいて、その景品です。それすら予算をつけられなかったということで、その何年かは中止しました。そういったことなどの本当積み重ねなんです。いろいろ議員の皆様からもお叱りを受けましたけども、一昨年も受けましたけども、河川公園のあのざまは何かと、全然管理がなってないと、花代も全然出さないじゃないかと。しかし、これらは残念ながら行革の中でやっぱりせざるを得なかったんですね。しかし、これからはそういったことを改めて、しっかりと必要なものは準備しなきゃいけないと。

したがって、私もこの8年間でさまざまな市民の皆様と行革のご理解、ご協力をお願いすると同時に、約束もさせていただいてました。必ず皆様の意見を、あるいはご提言を、要望を応えるべく、財政再建明けたらしっかりとそれらは市政運営に生かしていきたいという約束をしております。そんなことで、私もぜひこの11月の市長選挙のほうには再度挑戦させていただきたいと、そのように思っており、昨日、自分の個人後援会、あるいは支援団体、支援企業、また地元県会議員や国会議員の先生方の激励などもいただきながら次期市長選に挑戦したいということについてご了承いただきましたので、ぜひこの11月の市長選に、3選を目指し努力してまいりたいというふうに思っております。

そして、その際には、まず今まで市民の皆様からいただいたご要望やご提言、それらをできるだけ計画的に、なおかつ、できない部分もあるかと思しますので、そこは丁寧に説明をさせていただきながらしっかりと実現していくと。その柱となるものは、幸いにも第5次総合計画のほうにしっかりと反映されているものというふうに思っております。すなわち、第1の元気なづくり戦略、これは、我々が生活していく上で、幸せに暮らせる上で必要とされるやはり社会保障、福祉、介護、医療であったり、あるいは教育や子育て、そういったもの等、心豊かに生きるための、あるいは健康な肉体を維持するための文化・体育スポーツ施設等々のやっぱり充実も必要だろうと。

そして、2点目のにぎわいと働く場づくり戦略、これについては、まず第一が雇用だということは論をまたないわけでありまして。やっぱり私もいろんなところでお話しさせていただいてますが、5月の9日に全国紙、地元山形新聞も含めて1面を飾った、いわゆる日本創成会議の増田座長による提言、これっていうのは私どもにとっては非常に衝撃的だったと思っております。すなわち、26年後の2040年には20代、30代の、特に子供を産むには最適の年齢層の女性が、我々地方の自治体から半分以上減ってしまうんだと。その原因が働く場所がないということでありまして、これらの対応ということをやっぱり私どもはしっかりと産業振興と雇用ということを今以上に全力で取り組まなきゃいけないと思ってるところです。

最後に、活発な地域づくり、これは私は中心市街地の活性化ということのみを言ってるわけではなくて、やっぱり長井市は中央地区とほかの5つの地区が非常にバランスがとれたコンパクトなまちであります。したがって、6つの地域をそれぞれ地区公民館をできれば自治コミュニティセンター的な機能を持たせて、地域の

核としてさまざまな地域づくり、総合的な市民の皆様によりどころとなるような機能を持たせつつ、中央地区については中心市街地の活性化として、これを単に誤解されるんですが、本町の街路事業しても成功しないというふうに言われる方、大変多いです。それはそのとおりで、単なる商業機能としてもう一度新しい店をつくってもにぎわいは生まれまいだろうと、これはおっしゃるとおりなんです。ですから、そこにいかにして私たちも含めた若い世代の人たちが望む都市機能を設けるか。すなわち、商業だけでなく語らう場であり集う場であり、アメニティーを楽しめる、あるいは食事やさまざまなカルチャーとか、そういったことも楽しめるような機能を私ども民間の皆様と一緒に、商店街と一緒に、行政も一緒になってつくっていくということ、そして地域全体バランスがとれて、西置賜1市3町の中心のまちとして我々が都市機能の一定程度の部分を担っていかなきゃいけないんじゃないかなと、そのような決意でぜひ次期市長選に臨みたいというふうに思いますので、何とぞよろしくご理解、ご指導賜りますようお願い申し上げます、長くなりましたけど、私からの答弁とさせていただきます。どうもありがとうございます。

○小関勝助議長 13番、渋谷佐輔議員。

○13番 渋谷佐輔議員 それぞれご答弁ありがとうございました。

まず1番目の国道287号線の件ですが、私もあれから迂回路も通ってみました。それから、中山のほうの迂回路も通ってみました。やはり大瀬の川向かいの迂回路を通ってみますと交通どめがあったり、狭くて交互交通などがあって、やっぱりいつも通ってる国道287号と違って、気持ちがいらいらじゃないんだけど、じれったいなという、こんなことでいいのかなと、いつまで。そして、ちょこっと車をとめて対岸を見て、補修工事の現場見てみますと、やっぱ

りむき出しになった岩盤が斜めに筋状に断層が走ってるというのは、これじゃあ活断層じゃないけども、危ないんだと、まず目で見て。いつまでもこのような状態では、また何かあったとき交通どめが起きるんじゃないのかなと、ちょっと心配した、何というかな、ちっちゃなお世話かもしないけども心配したところです。

先ほど申し上げましたが、中山のほうの迂回路もずうっとぐるっと山の中通って、いつになったら国道287号に届くんだべなというような状態でかなり時間もかかりました。そういう状態で、本当に不便を来してるというのが実態ではないのかなと実感しました。

そんなこんなで、先ほど突拍子もない、トンネルの開削によって恒久的なあれができないのかなということを申し上げましたが、それも一つの選択肢としてやっぱりご検討いただければいいのかなと思っております。

あと、2つ目の公共施設に関してですが、先般テレビちょっと見てみましたところ、今、国立競技場の建てかえ問題がテレビで放送されました。何といたっけね、新しい建物は深海生物のようなものが描かれていると。何か外国の人が設計したとあってことですが、ところが、いろんな関係者からあれじゃあちょっと、何というかね、想像を絶するようなえたいの知れない物体に見えるというようなことで、いろいろ関係者から話がありまして、そういうようなちょっと訂正されまして今度は少しコンパクトになったんですが、カブトムシのような、深海生物からカブトムシに変わったというような表現をされる識者がおられました、その話の中で、ある建築家でしたかね、槇文彦氏でしたか、という方が、5万人収容の今の国立競技場を8万人にしたいと、言うなれば3万人の観客収容するのは新たにスタンドを加えれば8万人は収容できるんじゃないかという提案でございました。

そして、8万人もこれから集めてやる大会というのはどんなもんなんだと。5万人でいいんだらば3万人の客席は解体してもいいでないかと。それで、今の国立競技場をうまく利用してリフォームして、ちょっと補強して大会できないかという提案でございました、その建築家から。そういう新しく建てるよりも改修、リフォームによる長寿命化、延命化というのは図れないかという建築家のコメントでした。それも長井市の公共施設の場合と当てはめて考えるのはどうかと思いますが、やっぱりそういう手法も一つのこれからの公共施設の建てかえ、更新する上では考慮すべきでないかなと思いますが、市長、その辺ひとついかがでしょうか。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渋谷議員おっしゃった新しいオリンピックの競技場ですよ、というのはいろんな考え方があるんでしょうけども、私の理解としては、建設費の高騰といいますかね、すごくかさむということももちろんあるんでしょうけども、景観というふうに思ってるんですね。あそこは神宮で、新しい設計どおり、改正案ですよ、カブトムシとおっしゃった、あれにしてもすごい圧迫感があるんだということで、果たして神宮に、明治神宮のすぐそばに、外苑のところにもふさわしい建物かという議論だというふうに思ってるんですね。でも、通常考えた場合、昭和39年の建物ですから、それをリニューアルするというのはなかなか維持管理も含めて決して、後々考えればどうなのかなというふうに私は思います。

したがって、例えばこの建物なんかも、建てるとやっぱり40億円ぐらいかかるでしょうから、30億円といたら4割上がってますからね、下手すれば。そうですから、鶴岡のあの文化会館も50数億円ですよ。南陽に至っては45億円だったのが70億円ですよ。そういうようなことの中で、できれば私も先送りしたいです。

先送りすれば楽ですよ。でも、本当にそれでいいのかと。結局、議会の皆さんもそうですね、私どももそうですけども、平成になってからほとんど何にもしてないわけですよ、長井市の場合、建物。それが結局後で我々の次の世代とかその次の世代にそういうことがかかわってくるので、やっぱりそのときそのときのしっかりとした判断でやっていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思ってます。

ただ、それはまた同じように過剰な公共投資によって財政がまた厳しくなるということのないように、整備手法も含めて計画的なしっかりとした全体の構想を立てながら。構想ですよ。最初から幾ら幾らでやるなんていう数字を上げても、残念ながら財政計画というのは、私ども地方自治体では10年計画というのはなかなか難しいでしょうから、そういったことも懸案してやっていきたいなというふうに思ってます。

○小関勝助議長 13番、渋谷佐輔議員。

○13番 渋谷佐輔議員 この件に関して、舛添東京知事でしたかも、きのうだかね、コメントをしておりますね。過大な投資は東京都にとっては必要かどうか疑問だというコメントでした。やはり確かにいいものは欲しいでしょう、みんなね。でも、どっかで切り詰めて、こういう言葉、表現いかがかと思いますが、身の丈に合った、やはりそういう観念というかね、そういうのも必要でないかと私は思いましたので、質問させていただきました。

3番目の市長選に向けての考え方ですが、市長の考えはわかりました。一言言わせてもらえば、市長に当選したときの初心を忘れず、そしてあのときの感激というかね、感動をね、いつまでも持ち続けて市民のために頑張ってくださいというご期待申し上げて質問を終わります。ありがとうございました。